

平成29年2月24日

浜田市議会議長 西田清久様

議員名 芦谷英夫 

調査研究活動報告書

下記のとおり調査研究のため研修等を行ったので、その結果を報告します。

記

1、日時 平成29年2月16日(木) 13時30分～16時30分

2、研修内容 インバウンドビジネスセミナー

「インバウンドビジネス最前線」

～外国人旅行者がもたらすビジネスチャンス～

3、研修先 広島市(中国新聞大ホール)

4、調査経費 浜田駅⇒中筋駅⇒会場⇒広島バスセンター⇒浜田駅

(高速バス・タクシー利用)

バス代 5,340円

タクシー代 3,070円

計 8,410円

5、調査研究活動の概要

別紙報告書のとおり



「インバウンドセミナー～インバウンドビジネス最前線～」

平成29年2月24日

- 1 日 時 平成29年2月16日(木) 13時30分～16時30分
2 場 所 広島市(中国新聞 大ホール)
3 内 容 「インバウンドセミナー インバウンドビジネス最前線～

外国人旅行者がもたらすビジネスチャンス～」

- ① 基調講演 (株)中国市場戦略研究所代表 徐向東氏「中国人目線で考える、インバウンドビジネスのポイント」。中国からの観光客で個人旅行は3倍に増え2016年には団体旅行客より多くなる。爆買いから温泉・美容・グルメなど体験型へ変わってきており、ネットによる口コミ、行き先は東京・富士山・大阪・京都・奈良から地方都市に向いており、受け入れに当たっては文化や習慣が違うことを理解する。
- ② 観光庁観光局インバウンド戦略部長 蛭川彰氏「インバウンドで稼ぐヒント」。訪日外国人は地方都市旅行が半分を越え、これから地方都市は有望である。豊岡市と富士吉田市の例をあげ、豊岡市は城崎温泉と鞆で振興を図っており、京都、大阪、姫路などからのアクセスを改善させている。入浴、食事、土産、体験、遊びなど観光客に市内を巡ってもらう工夫をしている。富士吉田市は、富士山、五重塔、桜の有名な写真アングルで売り出している。
- ③ (株)Onomichi U2 佐藤慎哉取締役会長は、この会社は尾道港の港湾施設を活用してサイクリング、建築・デザイン、一般観光などの事業をしており、尾道らしさ、歴史の継承、素朴の中の洗練、馴染みの風景に現代の価値観から懐かしい未来、へと目標を掲げている。
- ④ (株)文化事業部セーラ・マリ・カミングス代表取締役は、長野県への留学生、長野オリンピックのボランティアを経て、長野県小布施で地酒づくりなどの会社を立ち上げ地域活性化など地域での事業を進めている。
- ⑤ (株)ホスピタブル松清一平代表取締役は、会社は韓国を中心として営業をしており、インバウンドは輸出業であるとし、訪日外国人を介して情報やモノを輸出するとし、韓国では人口5,000万人のうちブロガーは3,500万人おり、ブログによる発信が有効としている。

4 所 見

- ① 島根県はインバウンド外国人観光客が全国で最も少なく、最も力を入れるべき分野であり、加えて石見部は出雲部に加えて大きく後れをとっており、出雲部を視野に入れ連携などインバウンド施策が急がれる。
- ② 一方、浜田市は県立大学、留学生、これまでの国際交流事業、国際平和都市広島市の後背地などの優位性を生かす工夫が必要であり、温泉、魚、農産物、アクアス、美術館、歴史などに磨きをかけ、それらをつなぐ仕掛けが必要である。
- ③ 日本旅行は東京・大阪・京都・奈良・富士山などがメジャーであるが、2度目からは地方都市をめぐる可能性が指摘されており、特典や割引など「浜田のお得感」の演出と旅行客の増加、「浜田のお得感」の情報拡散が必要である。
- ④ 浜田市観光の課題は交通の便の悪さであり、行政としてインバウンド観光に注力しておらず、その方策の検討も進んでいない。知名度を上げるためSNS、インターネット発信が重要で、ネット環境に慣れた人を呼び込む戦略が必要である。一以上一